

旧沿岸域要塞における 景観・空間の価値評価に関する研究

STUDY ON EVALUATION OF LANDSCAPE AND SPACE IN ABOLISHED COASTAL FORTS

岡田 昌彰¹

Masaaki OKADA

¹正会員 博士(工学) 近畿大学講師 理工学部社会環境工学科(〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1)

Recently, evaluation of industrial heritages is a significant issue, and abolished coastal forts are obtaining social interest. Military forts have been pursued mainly in the field of history of military affairs or history of civil engineering, however, inherent “ruinage” landscape that old forts possess has not been well discussed.

This study quests for the potential value of landscape and space in abolished coastal forts through the analysis of expressions in media, mainly in web pages generated by general visitors 13 keywords are obtained to explain the potential value of military structures, including Fictional space, Artisticity, Non-artificiality, Place for adventure, Ephemera, or Confrontation of nature and manmade facilities. Furthermore, landscape and spatial properties of 5 major fort ruins are manifested through the comparative analysis with those elements.

Key Words : Coastal Fort, Military Ruin, Ruinage, Landscape, Space, Web Page

1. 研究の背景と目的

近年, 近代化遺産に対する社会的価値づけが活発に議論されており, わが国の沿岸域に点在する海堡や砲台など旧要塞に対する社会的関心も次第に高まる傾向にある。たとえば2003年には大阪湾の友ヶ島砲台群が土木学会選奨土木遺産に認定されたほか, 同年12月には国土交通省東京湾口航路事務所の主催で「東京湾海堡シンポジウム」が開催され, 旧要塞の廃墟景観としての価値やその空間の新たな可能性が指摘されている¹⁾。軍事史や土木史分野においても旧要塞をテーマとした研究が行われているが^{2) 3)}, 旧要塞が現代まで存在し続けることによって獲得した景観や空間の特性については十分に議論されているとはいえず, 具体的な景観・空間整備における方法についても検討途上の段階にある。

本研究では, 沿岸域に点在する要塞景観・空間に対するメディアの表象内容を分析し, 来訪者の発見した景観・空間の評価内容から旧沿岸域要塞の潜在的価値を探索することとする。これにより, 今後の景観・空間資産

としての旧沿岸域要塞の整備におけるイメージのおきどころを明らかにすることを目的とする。

オブザーバー主体の景観・空間評価研究としては, 工業景観や土木景観の価値づけを試みたテクノスケープ論⁴⁾があるが, 要塞をはじめとする戦跡景観には言及していない。英国風景式庭園の廃墟景観評価手法をもとに第二海堡の景観特性を明らかにした岡田・鈴木・朝倉の研究⁵⁾があるが, 既存芸術論とのアナロジーに帰着し実際のオブザーバーによる評価論には至っていない。近代化遺産研究の先進国である英国では沿岸域要塞の歴史探訪本なども発表されているが⁶⁾, 要塞特有の景観や空間の特性については触れられていない。

2. 旧要塞に対する評価の社会的動向

旧要塞など戦跡に対する評価は近年, 様々な観点から高まっているものといえる。学界においては1970年代より戦史研究界において調査研究が行われているが, 近年は土木史研究の分野においても, 当時の施工技術やブ

ランナー人物史などについて調査研究が進められている。

2002年には東京湾学会理事長の高橋在久教授を中心として「東京湾海堡ファンクラブ」が結成され、海堡の保存活用を目指した見学会や講演会をはじめとする研究・啓発活動が行われており、新聞紙上でも紹介されている⁷⁾。いっぽう、戦跡に対しては悲慘な戦争の記憶としてのネガティブな捉え方⁸⁾や、逆に国防史跡、地域の史跡としてのポジティブな捉え方⁹⁾もあるが、いずれの視点においても戦跡は保存活用の対象として捉えられているケースが多い。また、戦跡独特の形態や雰囲気などを芸術作品として捉える見方も存在する(図-1) 補注(1)。

そのほか、第二海堡や友ヶ島は釣り場として釣情報誌等にも取り上げられている。



図-1 芸術作品としての戦跡¹⁰⁾

3. 沿岸域要塞における景観・空間の評価分析

(1) 概要

a) 分析方法

次に、沿岸域要塞の景観・空間に与えられる価値について検討する。ここでは、2004年1月～4月にかけてインターネットのホームページ上に見られた沿岸域要塞に対する記述を収集し、その内容を分析した。

現在、旧沿岸域要塞は日本全国に点在しているが、これらをほぼ限無く列挙した文献²⁾に掲載されている日本国内の沿岸域要塞を、ウェブ検索エンジン「google (http://www.google.com/intl/ja/: 2004年4月現在)」にて逐次検索し、ヒットしたページの内容を分析した。

各ウェブページの沿岸域要塞言及内容はだまかに以下の4種類に分類される。

- I. 築城史や地域史をはじめとする歴史や、残存の有無を説明するもの
- II. 写真ギャラリー
- III. 釣やキャンプなどレジャーの場として紹介するもの
- IV. 探訪記

オブザーバーの発見する景観・空間の価値に主な関心をもつ本研究では、III及びIVの内容を中心にデータを抽出した。

但し、IVのうち単に探訪箇所名の列挙に帰着するものは除外した。なお、オブザーバーの価値観はIIの映像の中に読み取ることも完全に不可能ではないが、テキスト化の過程で筆者の主観が介入する可能性も否定できないため、データはテキストのみに限定した。さらに、IIの中にも撮影者の具体的コメントがテキストで併記されているものもあり、これもデータとして扱うこととした。Iの中に例外的に作者のコメントが付されているもの一部あったため、これも分析対象に含めた。

このような条件の下、ヒットした全1969サイトのうち125サイトを有効データとして抽出した(表-1)。

b) 抽出沿岸域要塞(図-2)

本調査では観光地化が比較的進んでいる和歌山県の友ヶ島要塞、横須賀市の猿島要塞が多く、次いで富津市の第二海堡、横須賀市観音崎三軒家砲台、富津市第一海堡の順に多く抽出された。その他、函館要塞、富津元洲砲台なども抽出された。

c) 沿岸域要塞の着目対象(図-3)

次に訪問者が沿岸域要塞の景観・空間に言及する際の着目対象を分類整理した。要塞全体に言及したものが52%に達し、次いで監視所や弾薬庫の「掩蔽部」、観測所上屋や砲塔などの「立体構造物」、要塞からの眺望、砲座、掘割などが着目されている。

表-1 データ例

整理番号	サイト名	対象要塞	種別	表現内容	タイムスリップ	異空間	探訪の場
26	徒然写	友ヶ島	全体	タイムスリップしてみたい	1	0	0
63	フォトミーム	第一海堡	全体	独り異界感覚を味わうことができました	0	1	0
81	SNAP DAYS	猿島	側登部	時代に取り残されたまさに20世紀の遺物	1	0	0
88	たびねた	猿島	全体	探検したくなりますよ	0	0	1

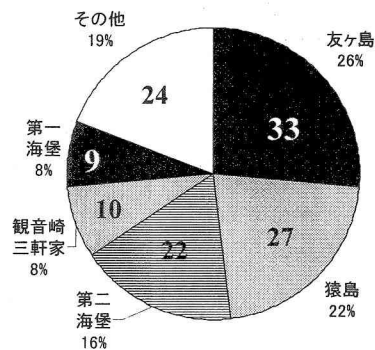


図-2 抽出された沿岸域要塞

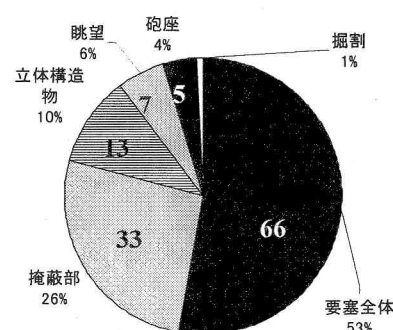


図-3 沿岸域要塞の着目対象

(2) 景観・空間の評価

次に、各データの景観・空間に対する表現内容から、13のボキャブラリーを抽出した(表-2) ^{補注(2)}。

a) 異空間(表-3)

要塞の景観・空間に対し、「異世界的な風景」「宇宙人の秘密基地」「トム・ソーヤになれる島」「インカの遺跡」というように、SFや童話の舞台、異国といった非現実的なものとしての表現が33データ見られる。うち20データは要塞全体について言及しており、7データが掩蔽部に対してこのイメージを表現している。

b) モダン・美(表-4)

「モダンなスタイル」「芸術的」「煉瓦の美しいアーチ」などのように、主に煉瓦造の要塞にモダンさや美を表現するものが21データ見られる。うち12データが要塞掩蔽部について言及しており、次いで要塞全体が7データとなっている。

c) 自然(じねん) ^{補注(3)} (表-5)

「ひっそりと緑に埋もれている」「蔦なども路壁に這っていていい感じである」のように、人工構造物が植物侵食や風化によって呈した非人為的な形態を評価するものが20データ見られる。このうち要塞全体に言及したものが11データ、掩蔽部が8データとなっている。

d) 探検の場(表-6)

「探検をしたくなる」「冒険心をくすぐる」のように、探検の場として沿岸域要塞を捉えるものが19データ見られる。このうち9割以上の18データが要塞全体を着目対

表-2 要塞景観・空間の評価項目

評価項目	要塞全体	掩蔽部	立体構造物	砲座	その他	合計
a) 異空間	20	7	4	1	1	33
b) モダン・美	7	12	1	0	1	21
c) 自然(じねん)	11	8	1	0	0	20
d) 探検の場	18	1	0	0	0	19
e) タイムスリップ	11	3	4	0	0	18
f) うつろい・滅び	9	2	4	0	0	15
g) 野性的	10	1	0	0	0	11
h) 自然人工対峙	7	3	1	0	0	11
i) 優雅	7	2	1	1	0	11
j) 畏怖迫力	2	4	1	0	0	7
k) レトロ	2	3	1	0	0	6
l) 迷路	2	1	0	0	0	3
m) 子供向き	3	0	0	0	0	3

表-3 「異空間」データ例

サイト名	対象要塞	着目対象	表現内容
ポートレート	友ヶ島	観測所	ウチュウジンの秘密基地
大阪日刊スポーツ なにわWEB	友ヶ島	要塞全体	トム・ソーヤになれる島
フォトミーム	第一海堡	要塞全体	独り異界感覚を味わうことができました
つぐまの 廃墟アワー	猿島	要塞全体	アンコールワットの遺蹟を彷彿させる

表-4 「モダン・美」データ例

サイト名	対象要塞	着目対象	表現内容
ふるいたてもの ずかん	津軽要塞	監視所	非常にモダンなスタイル
横浜近代建築 アーカイブクラブ	猿島	トンネル 側壁	芸術的
JAPANESE MODERN ARCHITECTURE	観音崎三 軒家砲台	観測所 入口	古いレンガがとても美しい アーチを描いています

表-5 「自然(じねん)」データ例

サイト名	対象要塞	着目対象	表現内容
足跡倶楽部	猿島	要塞全体	ひっそりと緑に埋もれている。
風と足音	猿島	掩蔽部	蔦なども路壁に這っていて、いい感じである
赤煉瓦倶楽部 舞鶴	吉坂保塁	弾薬庫	繁茂したクマザサに守られるかのように、良好な状態で遺されています。

表-6 「探検の場」データ例

サイト名	対象要塞	着目対象	表現内容
たびねた	猿島	要塞全体	探検したくなりますよ
Greenlanders	第一海堡	要塞全体	探検を満喫
戦搜録	矢筈保塁	要塞全体	冒険心をくすぐる

表-7 「タイムスリップ」データ例

サイト名	対象要塞	着目対象	表現内容
SNAP DAYS	猿島	掩蔽部	時代に取り残されたまさに20世紀の遺物
徒然ノ写	友ヶ島	要塞全体	タイムスリップしてみたい
風月荘	深山砲台	要塞全体	自然の中の遺跡のようだ

象としているのが特徴的となっている。

e) タイムスリップ(表-7)

「時代に取り残されたまさに20世紀の遺物」「タイムスリップしてみたい」のように、一時的に過去の時間に入り込む感覚を表現したものが18データ見られる。約6割の11データが要塞全体、約2割の4データが砲塔等の立体構造物に着目している。

f) うつろい・滅び(表-8)

「崩れたコンクリートの風情」「自然にかえる」のように、要塞が崩れ滅びることによって醸し出される風韻に言及するものが15データ見られる。6割が要塞全体に着目しているが、砲塔や発電所跡廃墟などの立体構造物が3割弱と他に比して比較的大きな割合となっているのが特徴的である。

g) 野性的(表-9)

「自然が見事」「ワイルド」など、野性的な空間として要塞を捉えるものが11データ見られる。うち9割の10データは要塞全体を対象としている。

h) 自然と人工の対峙(表-10)

「自然と人工建造物のコントラスト」を表現するもの

表-8 「うつろい・滅び」データ例

サイト名	対象要塞	着目対象	表現内容
ひとりぼっちの取材陣	第二海堡	掩蔽部	崩れたコンクリートとレンガの織り成す風情。
Nekop Home Page	友ヶ島	立体的構造物	崩れゆく建物を背に、桜が散ります。
日本の要塞	小首堡壘	要塞全体	あと数十年したら堡壘全体が自然にかえってしまいそうである。

表-9 「野性的」データ例

サイト名	対象要塞	着目対象	表現内容
雀の社会科見学帖	友ヶ島	要塞全体	生い茂る草の彩りは見事です。
美森勇気のページ	友ヶ島	要塞全体	とにかく、ワイルドというかすごいところ
Beach Side	猿島	要塞全体	要塞がありワイルドな気分浸っていられる

表-10 「自然と人工の対峙」データ例

サイト名	対象要塞	着目対象	表現内容
パラダイムシフト	猿島	要塞全体	自然と歴史的建造物の共存はアンバランス。これもまた一つの猿島の顔
Beautiful Japanese Island	第二海堡	掩蔽部	蒼い海と旧日本軍施設の残骸とのコントラストはなかなかシュールだ
島を歩く	友ヶ島	要塞全体	軍事施設の廃墟が、この、豊富な自然を逆に引き立てている

表-11 「優雅」「畏怖迫力」「レトロ」「子供向け」データ例

評価項目	サイト名	対象要塞	着目対象	表現内容
優雅	山とシトロエン	第一海堡	要塞全体	ブルジョア達の秘密の楽園
畏怖迫力	観光チャンネルほんまもん	友ヶ島	立体的構造物	巨大な要塞を思わせる建築物は訪れる人を圧倒させる。
レトロ	おおの3兄弟	猿島	立体的構造物	レトロである。
子供向け	一人歩きの北海道百名山	函館要塞	要塞全体	子供に人気のある砲台跡

が11データ見られる。着目点は要塞全体が7、掩蔽部及び立体構造物がそれぞれ3、1データとなっている。

i) その他(表-11)

要塞を「優雅な楽園」と表現するものや、「畏怖や迫力」を感じているもの、「レトロな尚古趣味」を投影するもの、「迷路」、「子供が好む場所」などの表現が見られた。いずれもデータ数は1割未満となっている。

(3) 既往研究「産業廃墟景観論」における価値創出ファクターとの関係

既往研究(11)ではこのような産業廃墟景観の成立要因として、「アイキャッチャー」^{補注(4)}「じねん」「尚古象徴」「うつろい」が挙げられている。既存美学とのアナロジーから導き出されたこれら4つのファクターは本調査においても抽出されているが、本調査は様々な一般のオブザーバーのもつ多様な審美眼が反映されており、美学解釈からだけでは必ずしも抽出し切れない要素が補完的に現れているものといえる。

4. 各沿岸域要塞の景観・空間特性

次に、データ数上位の5要塞(友ヶ島、猿島、第二海堡、観音崎三軒家、および第一海堡)について、3章で得られた各景観・空間特性について検討を行った。各沿岸域要塞のデータ総数に対し、3章で得られた評価の上位8項目(異空間、モダン・美、じねん、探検の場、うつろい・滅び、野性的、及び自然と人工の対峙)に関する言及率を求めた。なお、「じねん」は各要塞に共通して10~20%前後言及されている。

(1) 友ヶ島要塞^{補注(5)}(図-4・5)

友ヶ島は「異空間」が30%強言及されており、「タイムスリップ」「うつろい滅び」「野性的」も他要塞に比べて相対的に高い割合で言及されているのが特徴的である。緑豊かな島内には7箇所もの規模の大きな砲台跡が現存しているのに加え、風化劣化の著しい大規模な第二砲台や、整然と原型を留める第三砲台、緑に埋もれた聴音所跡など多様な要塞が現存していることもあり、評価項目も様々なものが挙げられているものと推察される。

(2) 猿島要塞^{補注(6)}(図-6・7)

猿島においては、「探検の場」が25%強と卓越しているのが特徴的である。このほか、「タイムスリップ」も20%弱の値を示しているいっぽう、「うつろい・滅び」は5%以下に止まっている。島内には要塞散策路が整備され、さらにほぼ原型を留めた煉瓦造トンネルなどが目立つ形で現存していることがその背景として推察される。

(3) 第二海堡^{補注(7)}(図-8・9)

第二海堡においては、「異空間」「うつろい・滅び」がそれぞれ40%強、30%弱と相対的に高い値を示し、さらに「野性的」が皆無となっているのが特徴的である。第二海堡では各構造物が島内一帯で崩壊状態にあり、さらに島内には緑が殆どなく独特の空間を一体的に見渡すことが可能であること等がこの背景として推察される。

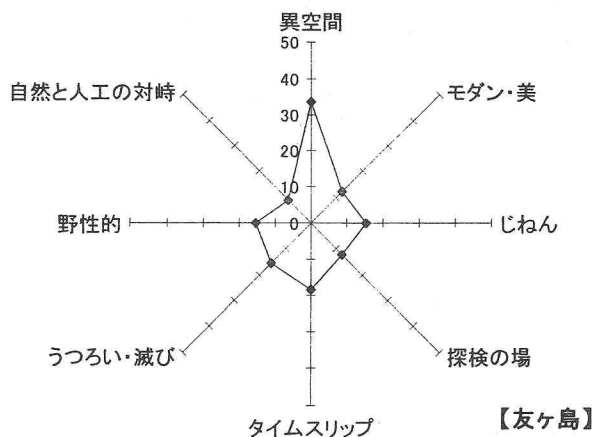


図-4 友ヶ島要塞の景観・空間特性

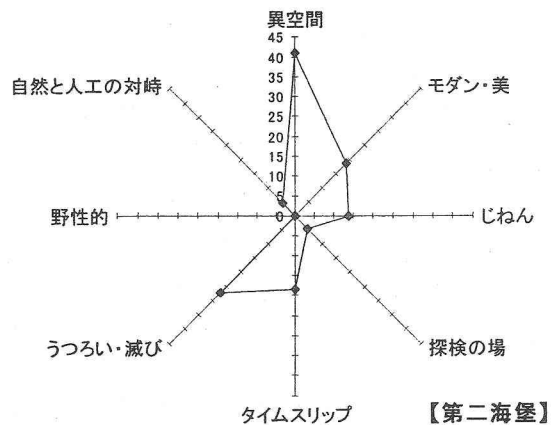


図-8 第二海堡の景観・空間特性

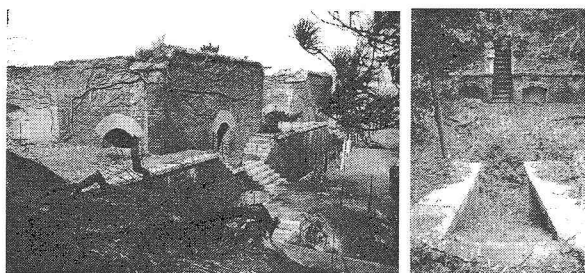


図-5 友ヶ島要塞の現況（筆者撮影）
第二砲台（左）及び第三砲台（右）

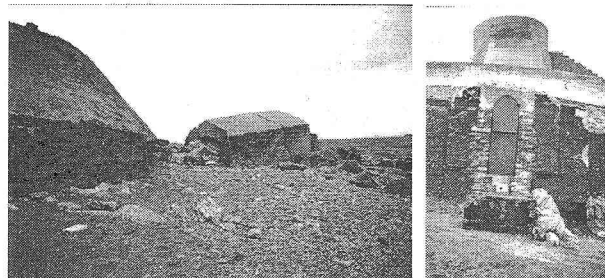


図-9 第二海堡の現況（筆者撮影）

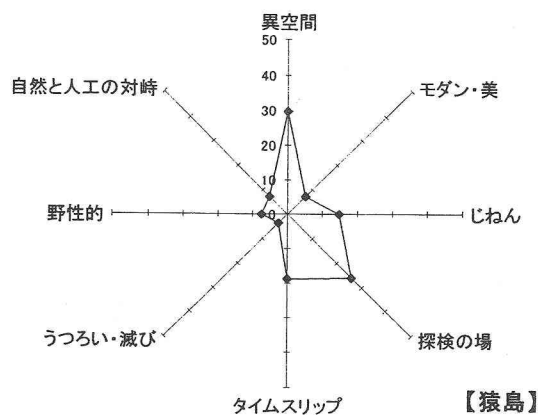


図-6 猿島要塞の景観・空間特性

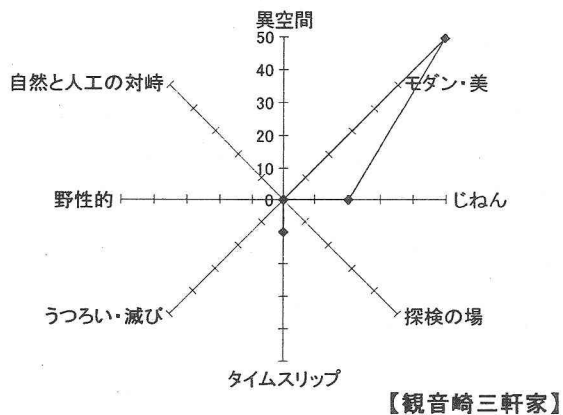


図-10 観音崎三軒家砲台の景観・空間特性

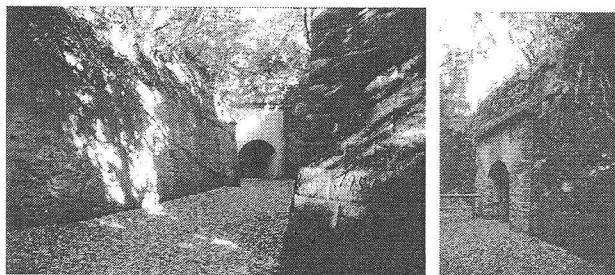


図-7 猿島要塞の現況（筆者撮影）

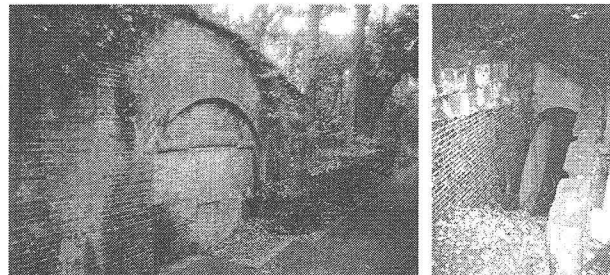


図-11 観音崎三軒家砲台の現況（筆者撮影）

(4) 観音崎三軒家砲台^{補注(8)} (図-10・11)

観音崎三軒家砲台は「モダン・美」が70%と非常に高い値を示している。要塞内には煉瓦造の弾薬庫掩蔽部が点

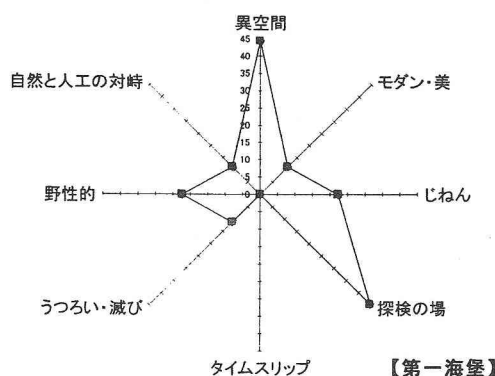


図-12 第一海堡の景観・空間特性

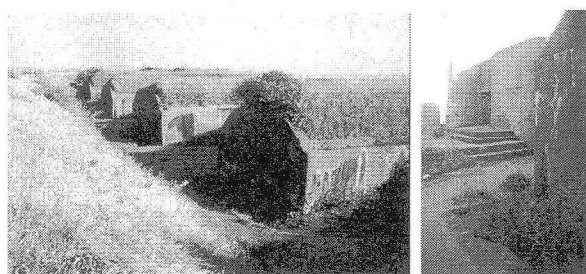


図-13 第一海堡の現況（筆者撮影）

在し、これらを細部まで間近に体験できることが要因として考えられる。

(5) 第一海堡^{補注(9)} (図-12・13)

第一海堡は「異空間」「探検の場」がそれぞれ40%を超え、相対的に高い割合を示している。関東大震災による被災が比較的小さく、図-13のように通路や砲台がほぼ原型のまま現存しており、見え隠れの空間体験が可能で「探検の場」として捉えられやすい空間構成となっていることがその背景として推察される。

5. 結語と今後の課題

本研究では、旧沿岸域要塞の景観・空間に対して与えられる価値を抽出・整理し、その景観・空間特性として13のキーワードを指摘した。加えて、美学論に基づいた戦跡景観に対する既往研究における知見との比較検討を行い、さらに上記キーワードをもとに各沿岸域要塞の景観・空間特性を検討することで、デザイン指標として各特性創出の背景と位置づけを明確化した。

本研究はウェブページにおける表現を手がかりに各要塞の景観・空間特性を把握したが、必然的に来訪者の集中しやすい関東・近畿圏の事例にデータが偏る結果となった。実際全国にはこれらに匹敵するだけの景観・空間的特性をもつ要塞の存在が予測され、分析手法を含め他の要塞についての検討も今後必要である。

付録

補注

- (1) このほか、写真家の小林伸一郎氏や安島多佳由氏、グループPRIDEからも芸術作品として戦跡写真を発表しており、造形美や特異な雰囲気などが表現されている。
- (2) 表現内容全体から重複してボキャブラリーを抽出しているものも含まれている。
- (3) 大辞林では、「自然（じねん）」とは、「人為が加わらないこと。ひとりでにそうなること」「たまたまそうであること。偶然」と定義されている。
- (4) 「アイキャッチャー」は風景構図に多様性を与える¹²⁾点において「自然と人工の対峙」の特例と捉えられる。
- (5) 大阪近郊の紀淡海峡に位置する。現存する7ヶ所の砲台跡や弾薬庫、聴音所などをめぐるハイキングコースやキャンプ場も整備されており、年間100万人前後の観光客が訪れている。
- (6) 横須賀市三笠公園東南東沖合に位置し、砲台跡や石垣、煉瓦造トンネルなどが現存している。現在は散策や釣のできる海上公園として利用されている。
- (7) 首都防衛のために築かれた人工の要塞島で、東京湾沖に位置している。関東大震災等で島全体の構造物が崩壊状態にある。現在は釣の名所としても知られている。
- (8) 19世紀末に建設された砲台がほぼ原型を止めたまま現存している。1975年に県立都市公園に指定され散策路等が整備されているほか、磯遊びや釣りスポットとしても知られている。
- (9) 第二海堡同様、首都防衛のために築かれた人工要塞島で、東京湾沖に位置している。良好な岩盤上に建設されたため関東大震災でも被害が殆どなく、各砲台が良好な形で現存している。右翼砲台は戦後米軍による爆破のため崩壊状態にある。

参考文献

- 1) 岡田昌彰：東京湾海堡シンポジウム報告～明治大ロマン第三海堡のロマン精神，土木学会土木史フォーラム No. 25, 2003
- 2) 浄法寺朝美：日本築城史，原書房，1971
- 3) 原剛監修：日本の要塞，学習研究社，2003
- 4) 岡田昌彰：テクノスケープ～同化と異化の景観論，鹿島出版会，2003
- 5) 岡田昌彰・鈴木武・朝倉光夫：景観資産としての東京湾第二海堡に関する研究，土木学会海洋開発論文集第19巻，2003
- 6) Andrew Saunders: Channel Defences～English Heritage; A Batsford Book, 1997
- 7) 日本経済新聞2002年8月23日号：海堡ファンクラブ設立の記事
- 8) 朝日新聞2003年3月27日号：戦跡ガイドブックの紹介記事
- 9) 日本経済新聞2003年5月22日号：国防の要衝として対馬の砲台跡を調査する郷土史家の記事
- 10) 日本経済新聞2002年5月9日号：トカノ美を語る芸術家の記事
- 11) 岡田昌彰：産業廃墟景観論・試論，ランドスケープ研究Vol. 64 No. 5, 2001
- 12) 中尾真理：英国式庭園，講談社，pp. 126-148, 1999